

同窓会・教室NEWS LETTER vol.1 

同窓会・教室NEWS LETTER 発刊によせて

同窓会会長 鈴木国興

先日、長期に亘り、同窓会長であった柏崎研が、同窓会長を辞することになりました。このたび7月8日をもちまして、同窓会長に就任いたしました鈴木国興です。つきましては、前同窓会長と同様格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



11月8日同窓会理事会で、今後の同窓会のあり方が検討されました。教室と同窓会員の連絡を密にするため、教室や同窓会の近況をご報告した方がよろしいだろうということで、今回ニュースレターを発刊（行）することになりました。

オバマ大統領の好きな言葉を紹介します。

E pluribus unum

（多くのものが集まって出来た1つ）

これを目指して、教室と同窓会員とでよりより教室を作りたいと思います。種々のアドバイスが頂ければ幸甚です。

平成29年11月20日 鈴木国興

Vol.1 内容

板橋病院の紹介

!!注目記事!! 母体救命への取り組み

国際学会の報告

日大板橋 婦人科腫瘍領域

手術件数は、年々増加傾向にあります。川名教授が赴任した2016年9月以降は婦人科悪性腫瘍患者が増加しております。特に、子宮頸癌はそれまでと比べて倍増しております。川名教授を中心に、婦人科腫瘍専門医3名、細胞診専門医1名によって、婦人科がんの先進的医療を行っています。

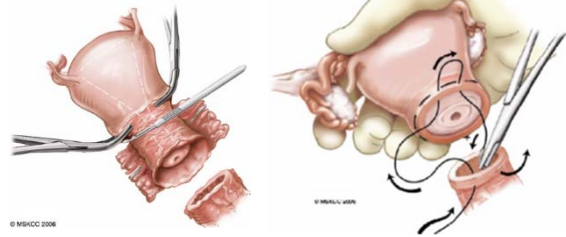
担当：川名 敬	産婦人科部長	(婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医)
高田眞一	婦人科科長	(婦人科腫瘍専門医)
千島史尚	婦人科病棟医長	(婦人科腫瘍専門医)
宮川康司	婦人科外来医長	

<得意とする治療>

広汎（準広汎）子宮頸部摘出術（トラケクトミー）：

子宮頸癌IA2期、IB1期の患者さんに対して、妊孕性温存（子宮体部+卵巣温存）しながら頸部病変を切除した後子宮頸部を再建する高度医療です。子宮頸癌の根治手術でありながら、治療後に生児を得ることができます。

腫瘍、生殖医療、周産期医療の連携が最も大切であり、スーパー総合周産期センターでもある日大板橋病院が、都内でも最も適した施設と考えています。



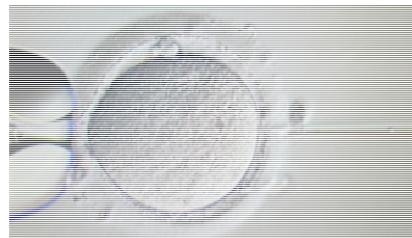
腹腔鏡下子宮体癌根治術（体癌ラパロ）：

腹腔鏡を用いて、リンパ節郭清も含めた子宮体癌手術を行います。低侵襲手術であり、1週間以内の入院で治療できます。子宮体癌IA期の患者さんを対象とした手術です。

日大板橋 生殖内分泌領域

タイミング療法や人工授精、体外受精、顕微授精、凍結融解胚移植を行っています。体外受精専門クリニックに比べ、治療周期数は少ないですが、様々な合併症を持った方を中心に不妊治療を行っています。

特徴：不妊治療も適応を見極め、必要以上に医療介入をせず、妊娠成立を目指すことを心がけています。しかし、個々の症例によっては早めのステップアップの提案を行い、生殖医療相談士による面談も取り入れながら治療を進めていきます。



妊娠成立した際には、周産期領域へ引継ぐことで、分娩まで安心安全な切れ目のない対応が可能です。当院では妊娠の成立のみを目的とせず、生殖と周産期の専門医により、妊娠成立後の周産期リスクを見据えた対応を初診時から心掛けています。

また、血液がんや乳がんなど悪性腫瘍患者様に対して、妊孕性を温存するため、卵子凍結や精子凍結、胚凍結を実施しております。

担当：林 忠佑	産婦人科救急担当医長	
	生殖医療専門医、周産期専門医（母体・胎児）	

日大板橋周産期 母体救命の取り組み

東京都の母体救命対応型総合周産期母子医療センター（スーパー周産期センター）である当院には、周産期専門医（母体・胎児）5名が所属しています。また、超音波専門医による胎児スクリーニングも行っています。新生児科、小児外科との密な連携により、出生後の外科的治療が必要な症例も含め、高度な周産期管理が可能な施設です。



母体救命の現場



J-CIMELS講習会風景



母体救命勉強会の様子



新生児蘇生法講習会風景

母体救命・新生児蘇生への取り組み

母体救命講習会、新生児蘇生法講習会を定期開催しており、インストラクター養成も行っています。これらを通じて、スタッフ教育や近隣医療機関との連携に力を入れています。当院の産科は救命救急科との連携が強く、J-MELSアドバンスコースを開催できる全国でも数少ない施設です。さらに、定期的で開催している母体救命勉強会では産科、救命救急科、新生児科、麻酔科、手術部の医師、スタッフが集まり、臨床上の問題をディスカッションすることにより、各科の連携を深めています。

日本母体救命システム普及事業（J-CIMELS）インストラクター養成*
母体救命講習会* J-MELSベーシックコース、アドバンスコース開催
新生児蘇生法普及事業（NCPR）講習会* Aコース、Sコース開催

*他施設の医療従事者も参加できます。各普及事業ホームページをご確認ください。

担当：小松篤史 産科病棟医長(2017年5月から)

- ・周産期専門医（母体・胎児）・指導医
- ・超音波専門医・指導医
- 市川 剛 産婦人科教育医長 周産期専門医（母体・胎児）
- 東 裕福 産科外来医長 周産期専門医（母体・胎児）
- 加藤恵利奈 周産期専門医（母体・胎児）

Youは何しに学会へ？

Asian congress on endometriosis(アジア内膜症学会 ACE) が2016年に大阪で開催されたことはご存知の先生方も多くいらっしゃると思います。その前年、第4回ACEはヨルダンの死海で開催されていたのです。おりしもISが幅を利かせ、不穏なシリア・イラクさらにはイスラエルに挟まれたヨルダンで行われることに、皆が怯え、日本からの参加者はACEの理事長である鳥取大学産婦人科、原田教授と名古屋大学の岩瀬准教授、そして日大から林の3名のみが参戦するという、非常にハードコアな学会でした。

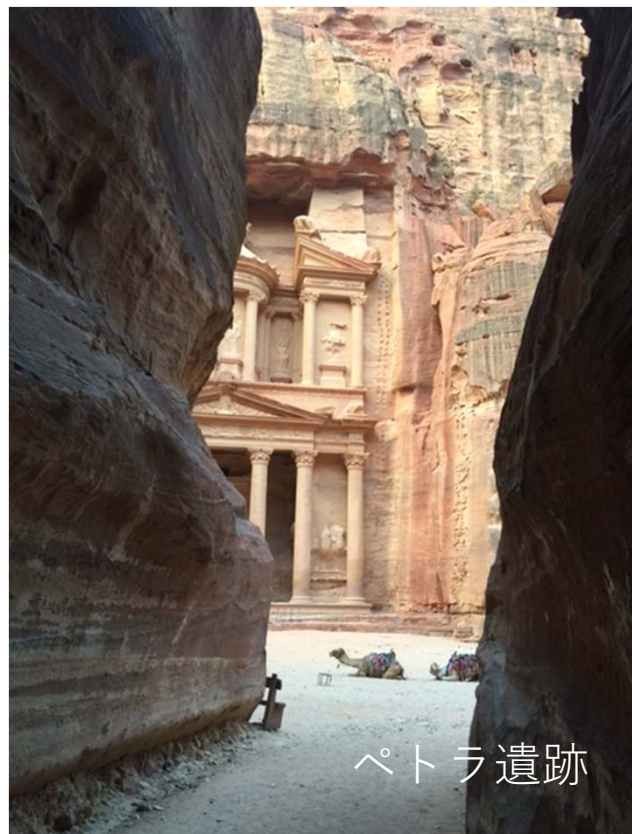


死海の向こう、パレスチナに沈む夕日

この第4回ACEは、第1回ヨルダン子宮内膜症学会も同時に開催されるという非常に記念すべき学会でした。ちなみにヨルダンの英語表記はJordanであり、ヨルダン産科婦人科学会の略称は、なんとJSOG！日産婦と全く同一なのであります。ヨルダン王室の王女がパトロンとなった学会では、開会式にコーランが流れ、なんともエキゾチックなものでした。

開催地が珍しいだけで、いつもの学会同様に子宮内膜症に関する基礎・臨床の様々な発表がありましたが、非常に印象に残ったシンポジウムがあります。それは、中東の国々が中心となった、女性への月経困難症啓発活動について、でした。イスラムの社会ではアバヤを身にまとい、非常に女性が大切にされているわけですが、その一方で女性の地位や社会進出は制限されているのかと思っています(林の個人的な意見)。そんな中、中東の産婦人科医たちは立ち上がって、女性たちへの啓発を行っていました。

ちなみに、2017年の第6回ACEはイランで開催されます。残念ながら、林は参加しません。



ペトラ遺跡

産婦人科医局ホームページのご紹介

2017年に日大産婦人科のホームページを完全リニューアルしました。医局員の紹介や臨床統計、学生・研修医に向けた入局案内を掲載しております。

同窓の先生方もぜひ、ホームページにご来訪いただきたいと思います。

医局HP URL:

<http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/nuobgyn/>

～同窓会会員の皆様へお知らせ～

7年間の会費未納の場合、旧会員になるという同窓会会則があります。旧会員になりますと、産婦人科同窓会名簿連絡先が記載されず、同窓会からの連絡が不能になります。2017年の同窓会総会において、今年度に限り、未納分の半額以上を納めた場合、旧会員にしないという事が決定しております。該当の会員の皆様には既に通知が行っているかと思えます。すでにご対応いただいた方々もいらっしゃいますが、改めて同窓会からの通知をご確認いただきたいと思います。

同窓会会誌の発刊が滞っており、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。このために教室と同窓のつながりが希薄になり、我々同窓会理事、教室員一同、大変申し訳なく思っております。

次号の同窓会会誌は川名教授の就任記念号として編集作業の真只中であり、近々お手元に届くかと思えます。今しばらくお待ちください。

次号予告
日本大学病院
(旧駿河台日本大学病院)
内部へ潜入調査！



* 皆様からの寄稿をお待ちしております

発行所：日本大学医学部産婦人科学教室同窓会
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1 日本大学医学部附属板橋病院
産婦人科 TEL 03-3972-8111
発行者：鈴木国興 編集者：林 忠佑（医局長）